



サプライヤー責任

2017年進捗報告書

サプライヤー改善	3
環境に配慮した製造	11
サプライヤー従業員の教育と支援	15
責任ある原材料調達	21
2016年の評価スコア	26

人と地球への責任を原動力に。

責任ある原材料調達からリサイクルまで、Appleは製品を製造するあらゆる側面で徹底的に配慮しています。11年目となるこのサプライヤー責任年次報告書では、2016年にサプライチェーン全体で私たちが達成したことについて詳しく紹介しています。

2016年、私たちはサプライヤーとともに、さらに取り組みを強化しました。これまで最多となる705件の包括的な施設監査を実施し、サプライヤーはAppleの厳しい基準を満たすための能力向上を実証しました。事実、パフォーマンスの高いサプライヤー施設の数は59パーセント増加し、パフォーマンスの低い施設は31パーセント減少しています。労働時間の遵守率は98パーセントに上昇し、中国にある最終組み立て施設の100パーセントで「UL Zero Waste to Landfill」認定(UL社による埋立廃棄物ゼロの認定)を初めて達成しました。また、すべての最終組み立て施設のプロセス薬品に関する規制物質仕様の遵守率は100パーセントに達しています。さらに、Appleのエネルギー効率化プログラムに参加しているサプライヤー施設の数を3倍に増やすことができました。その結果、15万トンを超える炭素排出量が削減されています。すでに多数の大手サプライヤーが、Apple製品の製造に使われるエネルギーのすべてを、2018年末までに再生可能エネルギーで供給することを約束しています。私たちの最終的な目標は、労働者のあらゆる権利と人権を自主的に保護し、自社の事業における健康、安全、環境のための効果的な活動を維持するための能力を、Appleのサプライヤーに身につけてもらうことです。

サプライチェーン業務の中心にいるのは、Apple製品を作るために力を注いでいる人々です。私たちはサプライチェーンの人材を支えるために今後も新しい方法を探し求め、職場の中と外での人々の生活を向上させるための支援を続けます。2016年、Appleはサプライヤー各社と提携し、240万人を超える従業員に向けて、従業員としての自らの権利を理解するためのトレーニングを実施しました。2008年以来、AppleのSupplier Employee Education and Development(SEED)プログラムに参加した人々の数は210万人以上にのぼります。また、従業員に重点を置いたモバイルプラットフォームを導入してAppleの教育プログラムを拡充することで、8万人の従業員を対象に英語スキルのトレーニングを実施し、約26万人の従業員が環境、健康、安全(EHS)のコースを修了しました。

2016年、私たちは責任ある原材料調達の取り組みをさらに拡大し、従来の紛争鉱物に加えてコバルトも対象としました。私たちは、現在Appleのパートナーとなっている紛争鉱物およびコバルトの製錬所と精製所の100パーセントが、自社の事業が常に責任ある方法で行われるように、独立した第三者による監査を受けている事実をうれしく思います。Appleの責任ある原材料調達への取り組みは終わることなく、私たちの基準をサプライチェーンの深い部分にまで浸透させるための活動を今後も続けていきます。

この報告書では2016年にAppleが達成したことについて紹介していますが、私たちは常に解決すべき課題があることを認識しています。私たちはサプライヤーに最も高い基準を満たすことを義務付け、彼らと協力して持続的な変化を起こすことで、生活の向上と環境保護のための取り組みを確実に続けていきます。

iPhoneの部品を検査する
技術者。



サプライヤー改善

連携して、さらに良くしていきます。

私たちは、Appleのサプライチェーンにおける、より安全な労働環境の構築、従業員の公平な待遇、環境面での責任ある行動の実践についての基準を設定しています。その概要をまとめたものがAppleのサプライヤー行動規範です。私たちは、Appleと取引を行うすべてのサプライヤーが、Appleの行動規範と補助的基準を肯定的に遵守することを求めます。私たちが掲げる規範は、単に法律に従うことを要求するものではありません。Appleのサプライヤーが満たさなければならない要件は毎年増え続け、基準を引き上げるための私たちの取り組みも続いていきます。

現場で行われる施設監査では、サプライヤーの操業と管理システムが、Appleの行動規範に合致する500以上のデータポイントにもとづいて評価されます。私たちは今後も、独立した社外監査担当者と協力し、書類の検査、管理者と現場の従業員への聞き取り、現場の点検を行っていきます。また、全体の状態を評価すると同時に、重大な違反の洗い出しにも取り組みます。これには未成年者の就労や強制労働、書類の改ざん、従業員への脅迫や報復、環境と安全の深刻なリスクが含まれます。

私たちは、サプライヤーに着実な改善を示すよう求めます。パフォーマンスの低いサプライヤーが前年比での改善を示すことができなかった場合は、私たちとの取引を失うリスクを負うことになります。2016年、Appleはさらに厳しいパフォーマンスポリシーを施行し、重大な違反を犯したり、サプライヤー責任のパフォーマンスが継続的に基準を下回る場合は、ただちに指導監督計画の対象としました。不適切なパフォーマンスに対するこのポリシーにより、2016年にはサプライヤー13社に對して取引配分を大幅に縮小し、3社との取引を完全に中止しました。

あらゆる部分を改善します。

約

30%

2016年の査定に
新しいサプライヤーが占める割合

2016年にAppleが行なった査定のうち、約30パーセントが新しいサプライヤーを対象としたものでした。このような新しいサプライヤーパートナーとの関係は、新規サプライヤー向けの研修プロセスによって始まります。このプロセスでは、サプライヤーの施設を実際に訪問して、Appleの行動規範の要件を確認し、Appleのサプライヤー拠点全体のベストプラクティスを共有して、彼らが最適な管理システムの開発にすばやく取りかかれるようにします。そして、新しいサプライヤーが起こしやすい間違いを理解できるように支援し、実証済みの解決策も提供します。また、彼らが独自にリスク評価を実施し、是正措置計画を作るよう指導します。この是正措置計画は、のちにAppleが社外監査担当者とともに検証します。2016年にAppleの新規サプライヤー向け研修プロセスに参加したサプライヤーのスコアは、最初の自己査定スコアに比べて平均39パーセント向上しました。

Appleのサプライヤー施設で行動規範に対する違反が発見された場合、彼らと連携して違反を是正し、問題の発生を未然に防ぐ方法を指導します。サプライヤー査定のあとに行われる現場ミーティングでは、スコアが低い分野のギャップ分析を実施し、あらゆる問題の根本原因を特定し、サプライヤーパートナーとともに独自の是正措置計画を作ります。このプロセスでは、サプライヤーの能力育成におけるAppleの豊富な経験を結集して作った、100以上もの技術的なツールキットを活用します。そして査定後3か月から6か月の期間をかけて、Appleの技術エキスパートがサプライヤーとともに入念な検証を行い、彼らが目標を達成できるよう支援します。その後、最終訪問を行い、十分な改善が行われたために通常の業務サイクルに戻すことができるか、あるいはパートナーシップを延長してパフォーマンス改善のための取り組みを支援するべきかを見極めます。

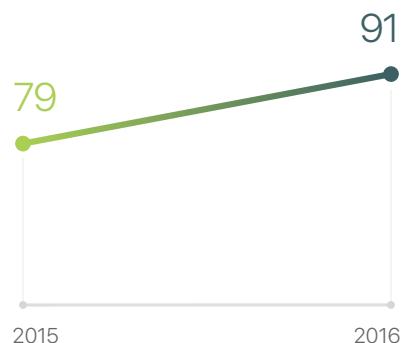
2016年、私たちはサプライヤーとのパートナーシップのための取り組みを拡大し、AppleのSubject Matter Expert (SME、特定分野専門家) プログラムでパフォーマンスが低かった、または中程度だったサプライヤーに対して、個別対応による対面コンサルティングを実施しました。AppleのSMEチームは、労働法、安全性リスク評価と管理、化学工学と産業衛生、機械および電気安全工学、廃水、雨水、排出ガスシステム設計といった専門分野において豊富な経験を持つ技術エキスパートで構成されています。

2016年、Appleは138のサプライヤーに対してSMEプログラムを実施しました。再査定された施設における前年比の平均スコア(100点満点)は、「労働者の権利と人権」が79から87に、「健康と安全」が79から91に、「環境」が67から87にそれぞれ増加しました。私たちはサプライヤーと密接に連携することで、日々の業務を責任ある方法で遂行するための取り組みにおいて、彼らが大きな改善を果たせるように支援しています。

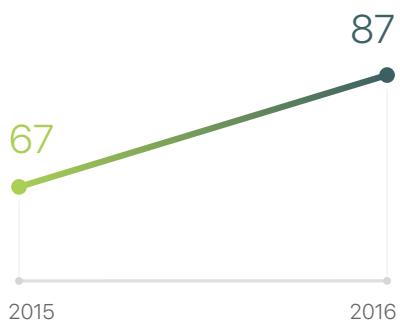
労働者の権利と人権の平均スコア



健康と安全の平均スコア



環境の平均スコア



ケーススタディー

コラボレーションを通して成功に導きます。

米国でもそれ以外の国々でも、私たちは環境問題を重視しています。中国の蘇州市にある Dynacast の施設で査定を行った際、雨水と有害廃棄物の管理に関する、緊急な対応を要する問題が明らかになりました。私たちは Dynacast と連携して差し迫った懸念事項を是正し、長期的な成功に導くために、彼らに SME プログラムに参加してもらいました。

6か月の間、Apple のチームが Dynacast の従業員に対して、Apple の基準について指導し、自己査定を実施するためのトレーニングを行いました。Apple は Dynacast の施設全体の廃棄物ラベルと標識の標準化、有害廃棄物保管エリアにおける漏出防止床の設置、保管エリアへの緊急キットと流出キットの追加、廃棄物とそのほかの化学物質のための二次格納施設の強化といった変更を支援しました。また Dynacast のチームは、雨水汚染リスクを認識するためのスキルを向上させ、雨水マップや新しい雨水管理プロセスも作成しました。

その結果、Dynacast の再査定スコアは 63 から 95 へ急上昇し、これまでで最大の改善を見せたサプライヤーの一つとなっています。その後 Dynacast は、自社が実施するサプライヤー監査においても、Apple の査定プロトコルと基準を採用しています。

安全を作り出します。

Appleは絶えず変化しています。私たちが新しい製品やデザインを作り、サプライヤーに新しい方法で業務を行ってもらう必要性が生じた場合、まずAppleのプロセス安全エンジニアが製造プロセスに健康、安全、環境リスクがないかを綿密に検査します。リスクが認められた場合は、社内およびサプライヤーのエンジニアリングチームと連携してリスク軽減計画を作成します。新しい製品や部品が安全な方法で作られることを確認するための安全性テスト、技術トレーニング、現場検証も実施します。

2016年には、Appleのプロセスエンジニアが多数の新しい製造プロセスについて細密な技術検証を行いました。また、工場における従業員の安全と環境に関する規制遵守体制を完全なものにするために、新しいFactory Readiness Assessment(工場準備評価)ツールを作りました。

260万米ドル

2016年に1,000人以上の従業員に払い戻された金額

仕事に就くためにお金を払うなんて、私たちにも想像できません。

不正な斡旋手数料を支払った結果、負債を抱える。そのような就職があつてはいけません。強制労働はAppleの行動規範に対する重大な違反であり、Appleはこれを一切容認しません。このようなケースが発覚した場合、Appleはサプライヤーに対し、斡旋手数料の全額を従業員に払い戻すことを要求します。2016年に発覚した違反は260万米ドルにのぼり、サプライヤーの1,000人以上の従業員に払い戻されました。これまでに合計2,840万米ドルが3万4,000人以上の従業員に払い戻されています。強制労働に関するほぼすべての違反がサプライヤーの最初の査定中に発覚するため、現在は新規サプライヤーの研修プロセスにこの払い戻しを含めています。この問題が繰り返されることはごくまれですが、少數ながらも再発したすべてのケースでAppleとの取引が打ち切られました。

ケーススタディー

強制労働が発覚したら、どこであろうと 終わらせるための支援をします。

世界のどこで発覚した場合でも、私たちは強制労働を容認しません。アラブ首長国連邦の配送センターで包括的な現場監査を実施した際、Appleにおける重大な違反の一つである強制労働の事例が発覚しました。このケースには、私たちが監査していたサプライヤーにサービスを提供する下請会社の従業員が関連していました。

そのほかにも多くの規範違反が判明し、この下請会社が不适当にパスポートを没収していることがわかりました。さらにこの会社が基準を下回る食事手当や、容認できない社員寮規則を定めていたことも発覚しました。

これらはすべて深刻な違反です。Appleはこうした問題を是正するためにこの下請会社との協力を試みましたが、彼らは結局私たちの基準を遵守しようとしませんでした。そのため私たちに残された唯一の手段として、当初のサプライヤーと協力し、この下請会社を彼らのサプライチェーンから排除する結果になりました。そして可能な場合は、下請会社の従業員をこのサプライヤーの給与体系で雇用してもらいました。さらにこのサプライヤーは、より進んだ是正策を打ち出しました。サプライチェーン全体の責任部門を設置し、Electronic Industry Citizenship Coalition (EICC)の一員となつたのです。業界全体の強制労働に終止符を打つ助けとなるのは、人権の保護に対してこのように積極的に取り組むサプライヤーにほかなりません。

未成年者就労を追放するために、 今後も気を緩めません。

Appleはいかなる理由があっても、法で定められた最低就労年齢に満たない従業員が私たちのサプライチェーンで就労することを許しません。2016年、私たちは約120万人の従業員を雇用している705の施設を査定し、中国のある製造施設で15歳6か月という未成年の従業員が1名働いていることを発見しました。中国の法律で定められた最低就労年齢は16歳です。私たちはこのサプライヤーに対し、この未成年の従業員を安全に帰宅させ、教育の機会を提供しながら給料も支払い続け、法定年齢に達した時には雇用の機会を提供するよう求めました。

フルタイムであることは、 常に働き続けることを意味しません。



2016年の労働時間遵守率
(上限週60時間)

長時間労働は製造業界と関連していることが多い問題です。私たちは、国際労働機関とEICCの基準にもとづいたポリシーを定めており、労働時間の上限を週60時間とすること、そして7日ごとに1日の休日を設けることを義務付けています。

2016年、私たちはAppleのサプライチェーン内の約120万人の従業員を雇用する複数のサプライヤー施設において、週ごとの労働時間を追跡しました。労働時間の遵守率は就労したすべての週において98パーセントに達し、前年の結果から向上しました。部門間で統合されたAppleのプログラムでは、私たちの標準的な査定プロセスの一環として、サプライヤーが報告するすべてのデータの慎重な検証も行います。

健康と安全が第一。



すべての最終組み立て施設で
使われるすべてのプロセス薬品は、
Appleが使用を制限している
物質を含んでいません

81

の施設を、Appleの技術エキスパート
と社内およびサプライヤーの製品開発
チームが共同で査定しました

Appleは、自らの製品とプロセスから安全性の低い化学物質を排除するための、長年にわたる取り組みを続けています。Appleの化学物質管理プログラムでは、主要な監査で化学物質の取り扱いに関する慣行を見直すことに加え、製品設計全体における有毒物質の使用を廃止または削減し、より安全性の高い物質で代用して、製造プロセスを設計し直すことに重点的に取り組んでいます。

Appleは2016年に、すべての最終組み立て施設で化学物質の年次マッピングを完了し、化学物質の場所、保管方法、量、そして換気や保護具などの項目を見直しました。また、すべての最終組み立て施設で使われるすべてのプロセス薬品から、ベンゼン、ノルマルヘキサン、洗剤や油性洗浄剤に含まれる塩素系有機溶剤といったAppleの使用制限物質が100パーセント排除されたことを確認しました。透明性を高め、より安全な溶剤を採用できるようにするために、私たちはGreen AmericaによるClean Electronics Production Networkイニシアチブを通して学んだことを共有しています。

これに加えて2016年には、化学物質管理の取り組みの対象を最終組み立て施設から重要部品の製造サプライヤーまで広げました。Appleの技術エキスパートと社内およびサプライヤーの製品開発チームが共同で81の施設を調査し、化学物質の在庫、職務上の危険性、保管方法、管理システムを査定しました。また、これらのサプライヤーに対し、自分たちで問題を特定し、解決する能力を強化するためのコンサルティングとトレーニングを提供しました。そして部門間での密接な取り組みを通して、それぞれの新製品に対する化学物質管理の監視を行い、過去の改善を確実に維持するためのモデルも開発しました。製造プロセスにおいてAppleが制限または禁止している可能性がある有害化学物質を特定するため、私たちは今後もAppleの規制物質仕様書にもとづくサプライヤーの査定を続けていきます。



中国の深圳市で、結合剤の安全な使用についてラインオペレーターと話し合うAppleのSME。



環境に配慮した製造

環境面でリードしながら、
パートナーが足並みを
そろえられるよう支援しています。

Appleでは、炭素排出量を最小限に抑え、埋立廃棄物を排除し、水を節約し、安全性に欠ける化学物質を置き換えるためのプログラムをサプライチェーン全体で推進しています。また、サプライヤーが使用するエネルギーの量を減らし、再生可能エネルギーに切り替えるための支援も行っています。私たちが担う責任は、紙のサプライチェーンにまでおよびます。Apple製品のパッケージに使われている紙の99パーセント以上は、再生された木材繊維、または持続可能な方法で管理されている森林と伐採管理が行われている木材源から調達されています。Appleが行うすべてのことの中心にあるのはイノベーションです。そしてそのイノベーションは、Appleのサプライチェーンで働く人たちと地球に対する私たちの責任へと広がっています。

1位

Corporate Information Transparency Index(CITI)により3年連続で1位にランク付けされました

世界は大きい。だから私たちの影響はできる限り小さく抑えたいのです。

Appleは、Corporate Information Transparency Index(CITI)の評価で80を超えるスコアを継続的に獲得し、3年連続で1位となった初の企業です。CITIは中国の非政府組織であり、環境に関する透明性について幅広い専門知識を持つInstitute of Public and Environmental Affairs(IPE)が実施しています。

私たちはIPEが集めたデータを、Appleのサプライヤーの環境パフォーマンスにおける改善分野を特定するために活用しています。また、IPEの担当者を招いて、特定されたギャップを確実に是正できるように監視を実施します。これにより、2012年以来、現地の環境当局によって特定された196件の問題が解決しました。このうち2016年単独の件数は23件でした。これらの各事例では、IPEによる直接支援と監視のもとで、独立した第三者が改善内容について検証しました。さらに、このプロセスに関わったAppleのサプライヤーの100パーセントが、引き続きIPEのプラットフォームを通して環境に関する年次監視データを公開し、改善が継続していることを透明性を持って示しています。一部のサプライヤーはこのアプローチを自ら導入し、今ではIPEと直接連携して自社のサプライチェーン内で環境問題を管理しています。

20万

トン以上の廃棄物を2016年に埋め立て処理せずに転用しました

廃棄物ゼロに向けて100パーセント取り組んでいます。

2016年、私たちは「UL Zero Waste to Landfill」認定(UL社による埋立廃棄物ゼロ認定)プログラムを中国のすべての最終組み立て施設に拡大することで、産業廃棄物を減らし、最終的にななくすための取り組みをさらに強化しました。埋め立て処理をせずに転用した廃棄物の総容量は、2015年の7万4,000トンから2016年には20万トンを超え、前年比で2倍以上になりました。現在、中国の最終組み立て施設のすべてが、本来は埋め立てごみとして処理されるはずだった廃棄物の100パーセントを転用しています。第三者監査で廃棄物ゼロと認定された施設の数は、2015年には1か所のみでしたが、2016年には15か所に増加しました。このプログラムの影響はサプライヤーの壁を超えた広がりをみせています。現地のリサイクルネットワークは強化され、消耗資材のループを閉じるプロセスが再設計され、リサイクルと再利用が可能な素材の使用が増え、あとに続こうとする部品サプライヤーの間で関心を呼びました。

ケーススタディー

廃棄物ゼロの製造施設を作るために。

Appleは2015年に、最終組み立てを担うサプライヤーに向けた廃棄物ゼロプログラムを開始しました。上海にあるTech-Comは同プログラムに参加したサプライヤーの一社です。私たちはこの施設と密接に連携する中で、施設が生み出す廃棄物のうち20パーセント以上が焼却または埋め立て処理されていることに気づきました。そこでサプライヤーおよび現地のリサイクル施設と提携し、廃棄物を選別してリサイクルする、より良いプロセスの開発に取り組みました。その結果、Tech-Comではすべての製造廃棄物をリサイクルできるようになったのです。さらにTech-Comは生ごみを管理する新しいプロセスを開発することで、生ごみを埋め立て処理場ではなく現地の生ごみ処理場に送れるようにしました。次に彼らは、それまでに学んだ知識を活かして自社のサプライヤーのためのプロセスを開発し、彼らが梱包材を回収して再利用できるようにしました。このプログラムが開始されて以来、Tech-Comは1万トン以上の廃棄物を埋め立て処理せずに転用しています。同社はその結果、彼らの功績にふさわしい「UL Zero Waste to Landfill」認定を2016年に獲得しました。

1,438万

キロリットル以上の水を2016年に節約しました。2013年からの累計では、3,028万キロリットル以上の節約です

水の使用を少なくするために、多くのことをしています。

水は地球で最も貴重な、限りある資源の一つです。AppleのClean Water Programは2013年以来、サプライヤーの工程で使われる真水の量を減らし、処理済み廃水の再利用とリサイクルを増やすことに重点的に取り組んできました。2016年には、私たちの支援によってAppleのサプライヤーが節約した真水が1,438万キロリットル以上に達し、86の施設における平均再利用率は35パーセントに向上しました。AppleのClean Water Programは開始以来、3,028万キロリットル以上の真水を節約してきました。これは地球上のすべての人にグラス18杯分の水を供給するのに十分な量です。

カーボンフットプリント削減への、大きな一歩。

15万

トン以上の炭素排出量を2016年に削減しました

私たちは、サプライチェーンを含むAppleのフットプリント全体で炭素排出量を減らすことにより、全力で気候変動対策に取り組んでいます。しかし、私たちの活動はこれにとどまりません。2020年までに全世界で4ギガワットの再生可能エネルギーを作り出すためにサプライヤー各社と連携することで、再生可能エネルギーの使用を促進しています。このエネルギーは、サプライヤー施設の電力供給に役立てられます。2016年にはAppleのエネルギー効率化プログラムに参加するサプライヤー施設の数を3倍に増やすことに成功し、その結果15万トンを超える炭素排出量を削減しました。すでに多数の大手サプライヤーが、Apple製品の製造に使われるエネルギーのすべてを、2018年末までに再生可能エネルギーで供給することを約束しています。これらの取り組みによって、年間700万トンの炭素排出量が削減される予定です。これには、150万台の自動車を1年間道路からなくすことと同等の効果があります。



中国の蘇州市でEnvironmental Health and Safetyのクラスに参加するサプライヤーの従業員。

サプライヤー従業員の教育と支援

働く人の毎日は、機会に満ちて充実したものであるべきです。

サプライチェーン業務の中心にいるのは、Appleの製品を作るために力を注いでいる人々です。私たちはそうした従業員に、仕事の上だけでなく職場の外でも成功をおさめてほしいと考えています。働く人の成功は、自らの権利を理解することから始まります。Appleのサプライヤーは2008年以来、1,170万人を超える従業員に対して、従業員としての権利、現地の法令、安全衛生規則、Appleの行動規範を理解するためのトレーニングを実施してきました。Appleはサプライチェーンの従業員に対し、自らの権利を理解することにとどまらない、幅広い分野の教育プログラムを提供しています。英語をスムーズに話せるようになるためのコースから、個人資産管理能力を高めるための講座まで、様々な科目が用意されています。Appleはサプライチェーンの従業員を守り、彼らの現在と将来に役立つツールを提供することに全力で取り組んでいます。

機会に満ちた職場。

210万

人以上のサプライヤー従業員が
Supplier Employee Education
and Developmentに参加
しました

2008年以来、AppleのSupplier Employee Education and Development(SEED)プログラムは、Macコンピュータ、iPadデバイス、ビデオ会議設備を備えた職場内の教室を活用し、コンピュータの基礎スキルから美容まで、幅広い講座を従業員が受講できるようにしています。高等教育を受けることを希望する従業員は、Appleが提供する準学士と学士のプログラムを受講することもできます。2016年には、2,500人の従業員がSEEDの高等教育プログラムに参加しました。SEED開設以来、準学士と学士を取得した参加者の総数は1万600人を超えています。現在までにSEEDに参加した従業員の数は210万人を超え、2016年単独でも70万人以上が参加しました。

モバイルプラットフォームへの移行。

従業員への教育と情報伝達をより優れた方法で行うために、私たちは従業員が毎日使っているデバイスであるスマートフォンを活用しました。2016年には、従業員のためのモバイルプラットフォーム上で8万人以上の従業員が英語スキル上達のためのトレーニングを受講しました。さらに、約26万人の従業員が合計300万を超えるテストを受けることにより、環境、健康、安全(EHS)の講座を修了しました。そのほかにも31万5,000人の従業員がAppleのキャリア育成トレーニングを活用し、専門能力を向上させています。

「このソフトウェアを使い始めてからまだ1か月ですが、すでに手放せないツールになりました。このプラットフォームで学んだり、課題に取り組んだり、ほかの人に挑戦するのがとても楽しいです。自分の知識を増やし、より良いリーダーになるのに役立っています。毎日の学習が私にもたらす感情は、言葉にするのが難しいほどです」

部品製造サプライヤーのオペレーター Wu Jia Xin氏

ケーススタディー

教育を機会に変える。

Jiang Hong Liu氏は大学の学位を2つ持つ経験豊かなFoxconnのマネージャーです。これは、技術者として組み立てラインで働き始めた頃の彼女には想像もできなかつた未来でした。

ある日の午後、Foxconn施設内の廊下を歩いていたJiang氏はSupplier Employee Education and Development (SEED) プログラムのポスターを目にしました。彼女はずっと大学に行きたいと望んでいましたが、家庭の事情でかないませんでした。しかしSEEDに参加することで、仕事を続けて家族を支えながら学位を目指すことができたのです。まずは準学士号、その数年後には学士号を取得しました。

Jiang氏の粘り強さと決意が実を結び、Foxconnでの職位は数年の間に上がりました。最初の仕事だった技術者のポジションからいくつもの昇級を経て、現在では自分のチームを率いるマネージャーを務めています。

「自分の仕事がとても気に入っています。Appleの教育プログラムはキャリアアップに本当に役立ちました。英語も上達したので、クライアントとのコミュニケーションやプロジェクト管理も自分でできるようになりました。SEEDに参加していなければ、今のキャリアは手に入れることができなかつたでしょう」

Jiang Hong Liu氏



Foxconnのキャンパスの前に立つJiang Hong Liu氏。

教育は安全のための非常に効果的なツールです。

2013年、私たちは職場の健康、安全、環境に関する問題に積極的に取り組むためのスキルにギャップがあることに気づき、Apple Environmental Health and Safety Academy (EHS Academy) を創設しました。サプライチェーンの人材に環境、健康、安全に関する重要なスキルの教育を提供することは、同時に彼らが昇進の機会を得るための支援にもなっています。EHS Academyは現地のマネージャーに対して、環境保護、大気汚染、水管理、化学物質管理、緊急事態対応、安全装置に関する教育を実践的な方法で届けます。マネージャーたちは与えられた課題に加えて、各自が管理する施設の環境、健康、安全状況を改善するためのプロジェクトを作成し、実行しなければなりません。EHS Academyの参加者たちが立ち上げたプロジェクトは、現在までに270か所のサプライヤー施設で3,300件を超え、教室の外で実際に成果を上げています。

ケーススタディー

様々な人々の様々なスキルが結集した、 銅のリサイクル。

FW氏、Tom氏、Bonnie氏は、中国の蘇州市にある電気コードメーカーFlexiumのそれぞれ異なる部署で働いていました。AppleのEHS Academyで出会った3人は、取り組んでいた講義の課題にインスピレーションを受け、協力して活動を始めました。

EHS Academyが注力する課題の一つは水管理で、受講者は汚染物質の除去、リサイクル、再利用を含む廃水処理の方法を学びます。Tom氏、Bonnie氏、FW氏は、学んだ知識を自分が働く施設の廃水処理に適用しました。Tom氏は銅に使用した廃水の処理に関するリスクとメリットを査定し、法的な要因を調査しました。FW氏はFlexiumの役員に自分たちのプロジェクトを説明し、予算とリソースを獲得しました。Bonnie氏は会社全体でプロジェクトをコーディネートしました。このプロジェクトには、建設業者から試験を担当するエンジニアまで、様々なスキルを持った人材が必要だったからです。

こうして3人は、Flexiumの廃水から電解によって銅を回収するプログラムを導入しました。現在では、回収した銅は費用を支払って廃棄する代わりに他社に販売しています。このプロジェクトでは、EHS Academyの水管理と固体廃棄物管理のコースで3人が学んだことが活用されているだけでなく、資源リサイクルの概念が実際に業務で使われています。

「AppleのEHS Academyでは実践的な課題が与えられただけでなく、コミュニケーションや役員への説明といったソフトスキルを含む、リーダーシップのクラスにも参加できました。そのおかげで、これまでになかった方法で、会社全体で協力し合うことができました」とTom氏は語ります。

このプロジェクトによりBonnie氏は仕事のスキルを高め、さらに成長することができました。「Academyに参加する前の私の仕事は、単に異なる部署に対して方針や手順を読み上げるだけでした。リーダーシップのコースを受講してからは、従業員に対するコミュニケーションスキルを活用して、環境、健康、安全に関する前向きな変革を起こすために、全社に影響を与えるようになりました」とBonnie氏は語っています。



中国の蘇州市でFlexiumの水処理施設の近くに立つFW氏、Tom氏、Bonnie氏。

従業員の意見には耳を傾けるべきです。

2.2万

2016年には2万2,000件を超える調査回答を回収しました

自らの権利が侵害されていると感じた時に、従業員が声を上げるためのプラットフォームを用意することを目標に、Appleはサプライヤーの施設内で調査にアクセスできるようにしました。匿名で苦情を報告できるこの調査は、ソーシャルメディアと、従業員が無料でかけられる電話を使ったインタラクティブな音声応答を通して行われます。このプログラムは2014年に3か所の施設で開始され、現在では最終組み立て施設と部品製造施設を含む29か所で実施されています。Appleは2016年に、2万2,000件を超える調査回答を回収し、施設で改善が必要な分野についての情報をサプライヤーに直接提供することができました。

書類を確認する社外監査担当者と
精製所の従業員。



責任ある原材料調達

原材料の責任ある調達を、 さらに深く掘り下げます。

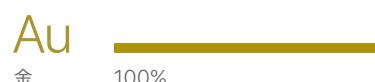
Appleは製品原材料の責任ある調達に徹底して取り組み、サプライヤーに対する最も厳格な基準の確立において業界をリードしてきました。Appleは2010年に、スズ、タンタル、タングステン、金(3TG)について、製錬所のレベルに至るまでのサプライチェーンを明らかにした最初の企業になりました。2015年には、これにコバルトを加えました。そしてAppleのサプライヤーである3TG製錬所と精製所のすべてが、2年連続で独立した第三者による監査を受けています。現在私たちは、提携しているコバルト製錬所と精製所に対しても、自社業務におけるリスクを査定して管理するよう要求しており、Appleのすべてのコバルトサプライヤーが独立した第三者による監査を受けています。私たちはこれからも3TG製錬所と精製所のリストを公表し続け、今後はコバルトのサプライヤーもこのリストに含めます。また、サプライチェーン内で小規模な業者から調達された原材料もすべて責任ある材料として認証できるよう、サプライヤーおよび関係者と協力を進めています。私たちは、この取り組みには終わりがないことを認識しており、私たちの基準をサプライチェーンの深い部分にまで浸透させるための活動を今後も続けていきます。

取り組みは、サプライチェーンを明らかにする ことから始まります。

鉱山で働く人々のコミュニティをサポートし、環境を保護するためには、まず私たちの製品の原材料となる鉱物がどこから来るのかを特定しなければなりません。Appleは2010年に、最終製品から3TGの製錬所に至るまでのサプライチェーンを明らかにした最初の企業となりました。さらに私たちも、サプライチェーン内で確認されているすべての3TG製錬所を透明性のあるリストにした最初の企業でもあります。私たちはこれからも、サプライチェーン内の3TG製錬所と精製所のリストを公表し続けます。

3TGにおける取り組みと同様、私たちはコバルトのサプライチェーンに対しても広範な取り組みを行っています。Appleは2014年末にコバルト採掘を取り巻くリスクについての調査を開始し、2015年にはコバルトのサプライチェーンを採掘のレベルに至るまで特定し始めました。そして現在、サプライチェーン内のコバルトの製錬所と精製所を初めて公表しています。

製錬所と精製所を特定した素材

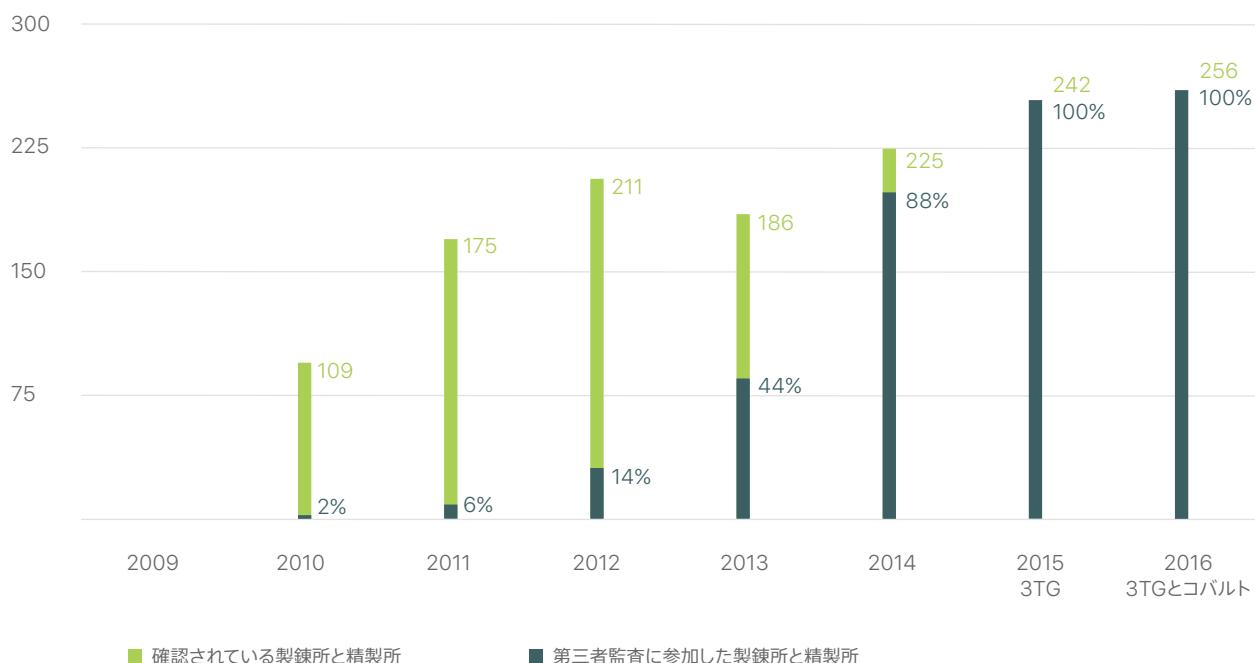


第三者の検証を通してAppleの基準を維持します。

製錬所の運営がAppleの厳しい要件に準拠していることを確認する方法の一つとして、私たちは独立した査定人の協力を得ています。そして私たちは、独立した第三者による紛争鉱物監査に参加する製錬所と精製所の数を着実に増やしてきました。すべての3TG製錬所と精製所に監査に参加してもらうという私たちの目標は、2016年に再び達成されました。また2016年には、コバルトについての第三者監査プログラムを開発するため、中国五鉱化工輸出入商会(CCCMC)と協力関係を結びました。現在私たちは、Appleのコバルトサプライチェーン内にあるすべての製錬所と精製所に対して第三者監査プログラムへの参加を求めており、問題が見つかった場合は確実に是正措置が取られるように働きかけていきます。

独立した第三者による監査に参加した3TGとコバルトの製錬所および精製所の数は、2016年には256か所に達しました。これに加えてAppleは製造部門サプライヤーに対して何十件ものスポット監査を行い、サプライヤーがAppleの求める評価要件を理解しているかどうかを審査しています。製錬所と精製所がそれぞれの原材料の調達先を特定し、大きなリスクに関わっている可能性があるかどうかを明らかにするための体系的な方法を持っていることを確認するうえで、監査プログラムへの参加は引き続き効果を発揮しています。私たちはすべての製錬所と精製所がAppleの要件を理解できるように支援していますが、2016年にはAppleの基準を遵守しようとしない、または遵守できないために、22社をサプライチェーンから除外しました。

3TGとコバルトの第三者監査の参加率



イノベーションが進行中： 初のリスク査定ツールを作成。

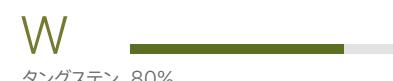
私たちは2016年に、責任ある原材料調達の要件を、これまでよりもさらに広範囲な課題を含むものへと拡大しました。これには強制労働と未成年者の就労、健康と安全、世界規模での環境への影響に関する、より明確な対応が含まれます。そのためには、製錬所と鉱山が自らのリスクを自社で査定できるようにする、よりシンプルで効率的な方法が必要でした。この方法により、Appleのような企業が、入手可能な原材料の中で最も信頼できるものを見つけて購入できるようになります。既存のツールはどれも、Appleのサプライチェーンに特有の原材料、地理的要素、企業や団体に伴う多様なリスクを査定するための柔軟性に欠けていました。そこでAppleは、簡単に使えるリスク査定ツールを作成したのです。

私たちはまず、様々な関連業界における社会的リスクと環境リスクについて、世界トップレベルの50以上の評価基準を研究することから始めました。そして、これらの基準にもとづく慣行から、24の主要な倫理的慣行を抽出しました。さらに、サプライヤーに対する自社事業についての簡単な質問により、それぞれの分野を細分化しました。これらの質問に答えることで、サプライヤーは簡単にリスクを特定し、それぞれの事業において課題をどのように管理しているかを報告できます。

私たちはこのツールをRisk Readiness Assessment (RRA)と呼んでいます。

2016年には、RRAツールがAppleのサプライヤーである3TGとコバルトの製錬所と精製所を含む193か所の製錬所と精製所で使われました。これらの評価基準は、人権と環境保護に対する脅威を査定し、地理的要素にもとづく体系的なリスクを特定し、調達の意思決定を行いやにくします。2017年からは、スズ、タンタル、タングステン、金、コバルトの製錬所と精製所に対してRRAの完了が義務付けられます。

RRAツールを使用している製錬所と精製所



私たちは、すべての企業が自らのサプライチェーンにおけるリスク管理報告のための包括的な手法を持つべきだと考えています。Appleは2016年に、EICCとConflict-Free Sourcing Initiative (CFSI)の年次会議でRRAの手法を発表しました。RRAは、EICCのプラットフォームを通して、EICCの全メンバー企業と関心を持つ企業や団体に提供される予定です。RRAはサプライチェーン内のすべてのレベルにある企業のために設計されており、どの業界にも適用できます。私たちは、自らの責任ある原材料調達の一環として、ほかの企業が十分な情報をもとに原材料を選択できるよう支援したいと考えています。

監査の先へ。

Appleは、製鍊所レベルでの第三者監査を通してAppleの基準遵守を推進することに加え、サプライチェーンのさらなる深部にも働きかけています。私たちは小規模なコバルト鉱山に深刻な課題があることを認識していますが、このような鉱山との取引を完全に絶つと、収入源としてそこに依存しているコミュニティが損害を受けることになります。Appleは個々のコバルト鉱山をAppleの基準をもとに検証するためのプログラムの開発において、コバルトのサプライヤーおよび関係者と協力しています。このプログラムのもとで、適切な保護措置が取られている確証を得られた場合は、その鉱山をサプライチェーンに組み入れることを許可します。また、私たちは非常に多くの非政府組織(NGO)と連携して変革を進めています。小規模鉱山で働く人々のコミュニティで、生活に不可欠な健康と安全のトレーニングを提供し、子どもたちが学校に通い続けられるように支援するプログラムを構築しているNGO、Pactもその一つです。さらにAppleは、国際組織であるFund for Global Human Rightsに助成金を提供しました。この組織はコンゴ民主共和国の草の根組織に資金のサポートやそのほかの支援を行い、鉱山コミュニティでの児童労働と人権侵害の廃絶に向けて活動しています。

Appleの取り組みは現在も進行中ですが、サプライチェーンのすべてのレベルにおける精査を強化し、同じ考え方を持つ企業や組織と連携することにより、世界各地で人権と環境を守るための活動を続けていきます。



パレットの上にビニールのロールを安全に置くために
マニピュレーターを使うオペレーター。

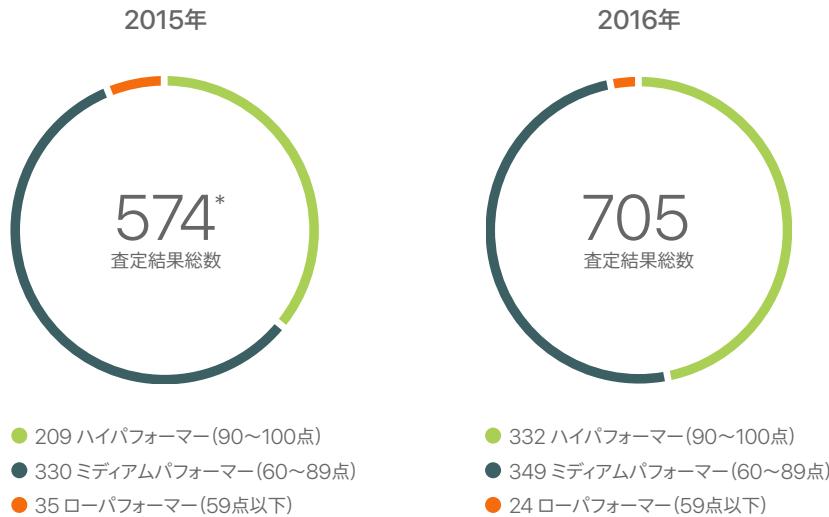
2016年の評価スコア

より緊密な連携は、より高いスコアにつながります。

2016年のサプライヤー査定結果では、製造、ロジスティクス、コンタクトセンターの750の施設で、
実際のパフォーマンスと基準遵守の間にギャップがあることが明らかになりました。

査定対象となった各サプライヤーは、100点を満点とする点数評価により、Appleの行動規範と照らし合わせたパフォーマンスを評価されます。90点から100点を獲得したサプライヤーは、高いパフォーマンスをおさめた「ハイパフォーマー」です。59点以下の場合はパフォーマンスの低い「ローパフォーマー」、60点から89点の場合は「ミディアムパフォーマー」となります。

2016年には、Appleのサプライチェーンにおけるローパフォーマーの施設は31パーセント減少し、ハイパフォーマーの施設は59パーセント増加しました。



2016年の評価スコア

行動規範に対するサプライヤーのパフォーマンスを査定すると、様々な程度の改善が必要な分野が明らかになります。私たちはこのような不遵守を、その深刻さに応じて、管理上の不遵守、違反、重大な違反の3段階に分類しています。

管理上の不遵守：ポリシー、手順、トレーニング、コミュニケーションに関する査定結果。

以下はその例です。

- 記録の保存方法が不適切
- ポリシーまたは手順についての文書が不適切
- ポリシーについてのトレーニングが不十分

違反：実施に関する査定結果。以下はその例です。

- 福利厚生の給付が不十分
- 雇用前、雇用中、離職後の業務関連健康診断がない、または不適切
- 環境に関する許認可がない、または不適切

重大な違反：Appleが行動規範に対する最も深刻な違反とみなす査定結果。以下はその例です。

- 未成年者の就労または強制労働
- 書類の改ざん
- 従業員への脅迫または報復
- 環境と安全に対する脅威

Appleの2016年の査定結果では、労働者の権利と人権、健康と安全、環境のカテゴリーで明らかになった調査結果と、その結果として講じた措置に焦点を当てています。

2016年の査定結果

労働者の権利と人権

2016年には、労働者の権利と人権に関する22件の重大な違反が明らかになりました。これらの違反には、強制労働10件、労働時間の改ざん9件、ハラスメント2件、15歳6か月の従業員が関与した未成年者の就労1件が含まれます。

それぞれの違反に対し、Appleは以下の措置を講じました。

強制労働

Appleは、従業員に斡旋手数料を請求することを一切禁止しています。そのため、すべての違反に対し、従業員が支払ったすべての斡旋手数料について徹底的な調査を行うことをサプライヤーに義務付けています。違反が証明された場合、サプライヤーは従業員に斡旋手数料の全額を払い戻す必要があります。また、従業員に事前の斡旋手数料を支払わせている民間の人材斡旋業者が慣行を改めることを約束しない限り、サプライヤーはその業者との取引を打ち切らなくてはなりません。

ハラスメント

サプライヤーにおいてハラスメントに関する重大な違反が発覚した場合、Appleは根本的な原因を突き止め、苦情報告システムが効果的に機能しているかどうかを調査するようサプライヤーに求めます。サプライヤーはその結果を私たちに報告し、根本的な原因に関する分析と、再発防止に向けた詳細な手順を含む是正措置計画を提出しなければなりません。

未成年者の就労

未成年者の就労が明らかになった場合、サプライヤーはただちにその未成年従業員を安全に帰宅させ、法で定められた最低就労年齢に達するまで継続して賃金を支払うとともに、教育の機会を提供する義務を負います。さらに、彼らが合法的な就労年齢に達した時には、再雇用の機会を与えなければなりません。

労働時間の改ざん

従業員の労働時間を改ざんしたことが発覚した場合、Appleはその違反をサプライヤーのCEOに報告します。続いて、そのサプライヤーの倫理規程と管理システムを徹底的に見直すことで根本的な原因を特定し、実際の労働時間と記録された労働時間の差をなくします。また、サプライヤーには改正された倫理規程が確実に遂行されるよう定期的な監査を行うことを義務付け、違反の再発を防止します。さらに、サプライヤーは従業員の労働時間を正確に計算し、その結果を反映してすべての記録を修正しなくてはなりません。

2016年にAppleがサプライチェーン全体で実施した705件の査定で、労働者の権利と人権に関する評価スコアの平均は100点満点で85点でした。

労働者の権利と人権に関する 遵守率



2016年には、労働者の権利と人権に関するパフォーマンスの基準をさらに引き上げました。例えば、外国人従業員が民間の人材派遣業者に手数料を支払い、サプライヤーがあとでこれを従業員に払い戻した場合は、そのサプライヤーに対する要求を厳しくし、人材派遣業者に手数料を直接支払うことを義務付けました。これにより、従業員が負債を抱えることを防止できます。2016年には、このような状況が15件は正されました。

学生従業員に対する保護も強化しました。一部の国では、学生インターンの賃金を通常の従業員より低く設定することが法律で認められています。2016年には、Appleの行動規範の条件を変更し、通常の従業員と同等の賃金を学生従業員に支払うことをサプライヤーに義務付けました。その結果、同年に違反が3件見つかり、いずれも是正されました。

スコアがAppleの基準に満たないサプライヤーでは、見つかった違反の大半が報酬と労働時間に関するものでした。報酬に関する違反には、給料明細の記載事項が誤っていたり、賃金と福利に関する規定が適切に文章化されていないなどの事例があります。労働時間に関する違反では、記録が不正確であったり、義務付けられている休日日数が十分に提供されていないという例が挙げられます。割合は低いものの、差別の禁止、ハラスメントの禁止、苦情報告システムのほか、未成年および学生従業員などの特殊な種類の労働者保護に関するプロセスの違反も見つかりました。

労働者の権利と人権

不遵守に対する平均減点ポイント* : 15.4

不遵守のカテゴリー

減点

	減点の合計	管理上の不遵守	違反	重大な違反
賃金	4.7	0.3	4.4	0
労働時間	4.6	0.6	3.9	0.1
強制労働の防止	1.9	1.1	0.7	0.1
契約	1.2	<0.1	1.2	0
差別の禁止	0.8	0.5	0.3	0
ハラスメントと虐待の禁止	0.6	0.4	0.2	<0.1
苦情への対応	0.6	<0.1	0.5	0
保護対象グループ	0.5	<0.1	0.4	0
結社と団体交渉の自由	0.3	0.1	0.2	0
未成年者就労防止	0.2	0.2	0	<0.1

*端数処理のため減点ポイントの総数が合計と合わない場合があります。

2016年の査定結果：

健康と安全

2016年には、健康と安全のカテゴリーで重大な違反は見つかりませんでした。

2016年にAppleがサプライチェーン全体で実施した705件の査定で、健康と安全に関する評価スコアの平均は100点満点で87点でした。

健康と安全に関する
遵守率



スコアがAppleの基準に満たないサプライヤーでは、見つかった違反の大半が危険防止と緊急事態に対する準備に関するものでした。

危険防止に関する違反には、不適切な標識、機械や設備を使用する際の保護対策の不足などがあります。例えばレーザー機器を正しく使用するには、従業員は常に目を保護し、体の前に保護シールドを設置しなければなりません。どちらかが不足していれば、違反とみなされます。機械や設備を使用する際の保護が不足している場合、Appleはすぐにその設備の稼働を停止し、適切な保護器具を設置してから使用を再開するようサプライヤーに求めます。また、新しい保護対策を講じたあとは、その結果を反映した最新の安全対策を指示する標識の掲示をサプライヤーに義務付けています。

緊急事態に対する準備の違反の例としては、不十分な緊急対応および復帰計画や、出口標識の不備が挙げられます。例えば全社員に向けた避難経路の詳細、緊急時の連絡先となる担当責任者、火事や化学物質の誤処置および天災を含む緊急事態の具体的な緩和措置が緊急対策計画に含まれていなければ、違反とみなされます。緊急対策計画が不適切であることが判明した場合は、緊急事態の発生時に従業員が集合できる避難場所を定め、緊急時の避難地図と手順を作成して職場に掲示し、これらの新しい手順について従業員に告知するようサプライヤーに要求します。

査定の結果、割合は比較的低いものの、健康と安全に関する許認可、事故管理、作業環境と生活環境に関連した違反が見つかりました。

健康と安全

不遵守に対する平均減点ポイント* : **12.8**

不遵守のカテゴリー

減点

減点の合計

管理上の不遵守

違反

重大な違反

不遵守のカテゴリー	減点	減点の合計	管理上の不遵守	違反	重大な違反
労働安全衛生と危険防止	5.4	5.4	0.7	4.7	0
緊急事態の予防、準備と対応	3.8	3.8	0.9	2.9	0
健康と安全に関する許可証	2.0	2.0	0	2.0	0
医学的監視と事故管理	1.0	1.0	<0.1	1.0	0
作業環境と生活環境	0.6	0.6	0	0.6	0

*端数処理のため減点ポイントの総数が合計と合わない場合があります。

2016年の査定結果：

環境

2016年の環境分野では2件の重大な違反が見つかり、そのうち1件は排水、もう1件は排出ガスに関するものでした。それぞれの違反に対し、Appleは以下の措置を講じました。

排水

Appleは排水に関するすべての違反に際し、製造の一時的な停止も含め、排水の放出をただちに中止することをサプライヤーに義務付けています。サプライヤーはこれを受け、包括的な根本的原因の分析、将来的な事故防止対策の実施、そして排水による汚染で生じた環境被害の是正に取り組まなければなりません。

排出ガス

排出ガスに関する違反が見つかった場合、Appleはただちにガスの排出を中止し、問題が解決するまで製造を停止するようサプライヤーに命じます。その後、サプライヤーに対し、事故の再発を防ぐために根本的原因を徹底的に分析し、堅牢な計画を立てるよう求めます。

2016年にAppleがサプライチェーン全体で実施した705件の査定で、環境に関する評価スコアの平均は100点満点で87点でした。

環境に関する
遵守率



2016年に見つかった違反の大半が、有害物質の管理と環境に関する許認可に関するものでした。

有害物質の管理に関する違反には、廃棄物の不適切な保管や、廃棄物の不十分な分別が含まれます。例えば廃棄物が漏出した時に備えて、保管施設に保管物質の110パーセントに相当する容量がないことが判明した場合、私たちはこれを違反とみなします。廃棄物の不十分な分別の例としては、有害廃棄物と無害廃棄物を完全に分けていないケースが挙げられます。廃棄物の分別が不適切であることがわかった場合、Appleはサプライヤーに対し、種類の異なる廃棄物を速やかに分別し、それぞれの廃棄物に対応する保存場所を指定するよう要求します。これには二次格納施設の設置も含まれます。さらにサプライヤーは、廃棄物を扱うスタッフを対象とした研修を実施し、廃棄物の適切な分類と廃棄手順に関する理解を促さなければなりません。

環境に関する許認可違反の例には、許認可の期限切れや営業許可証の不足が含まれます。Appleは、製造を開始する前に、適用される許認可をすべて取得するようサプライヤーに求めています。許認可の不足が発覚した場合、サプライヤーは地域の関係当局で必要な許認可の手続きを取り、許認可の申請に必要な規制当局の手順に従わなければなりません。また、将来的な事故を防ぐため、サプライヤーは変更管理手順の強化も義務付けられます。

割合は比較的低いものの、査定の結果、雨水と排水の管理、排出ガスの管理、無害廃棄物の管理、境界騒音管理、公害防止に関する違反が見つかりました。

環境

不遵守に対する平均減点ポイント* : **13.2**

不遵守のカテゴリー	減点	減点の合計	管理上の不遵守	違反	重大な違反
有害物質の管理	4.6	0.7	3.9	0	
環境に関する許認可	2.8	0	2.8	0	
雨水の管理	1.6	0.8	0.8	0	
排出ガスの管理	1.3	0.3	1.0	<0.1	
廃水の管理	1.2	0.5	0.6	<0.1	
無害廃棄物の管理	1.0	<0.1	0.9	0	
境界騒音管理	0.6	0.2	0.4	0	
公害防止と資源削減	0.1	0.1	0	0	

*端数処理のため減点ポイントの総数が合計と合わない場合があります。

未来を見つめて。

私たちにはAppleのすべてのサプライチェーンを通じて、出会った時よりも良い世界を未来に渡せるチャンスが毎日与えられています。これは決して終わることのない挑戦です。私たちはサプライヤーに最も高い基準を満たすことを義務付け、彼らと協力して持続的な変化を起こすことで、生活の向上と環境保護のための取り組みを確実に続けていきます。

Appleのサプライヤー責任プログラムの詳細については、
www.apple.com/jp/supplier-responsibilityをご覧ください。

